

所 沢 市 平和推進事業のまとめ

令和5年度

経営企画部企画総務課

所沢市平和都市宣言

武蔵野の緑豊かな自然のなかで、やすらぎに満ち、健康で生き生きとした日々を送ることが、私たち市民共通の願いです。

私たちは、国是の非核三原則を厳守し、戦争という過ちを繰り返さないことを願うとともに、限りある資源を大切にし、かけがえのない地球環境を守り、平和な世界が確立されることを強く望みます。

所沢市民は、基地全面返還を求め、未来に向かって平和な社会を築くことを誓い、ここに平和都市を宣言します。

平成2年6月22日議決、同年7月1日告示

目 次

| | |
|--------------------|----|
| 広島平和記念式典参加事業 | 1 |
| 平和大使感想文 | 5 |
| 所沢市平和を語る会（語り部派遣事業） | 10 |
| 平和祈念資料展 | 15 |
| 平和推進事業の歩み | 17 |
| 広島市旧庁舎被爆敷石について | 18 |



広島平和記念公園・原爆死没者慰霊碑

広島平和記念式典参加事業



原爆ドーム（広島平和記念公園横）

《事業概要》

所沢市では、例年8月6日に執り行われる「広島市原爆死没者慰霊式 並びに平和祈念式（広島平和記念式典）」に、平和に対する認識を深めていただくために、市内在住中高生等の市民代表者（平和大使）とともに参加しています。

この事業は、戦後78年余りが経過する中で唯一の被爆国であることを風化させないためにも、将来を担う若い世代の方が被爆地である広島に赴き、被爆施設や平和記念資料館への訪問を通じて自らの目で歴史に触れるとともに式典に参加することで、原爆や戦争の悲惨さや平和の尊さを再認識する機会となっています。

【期 間】 令和5年8月5日（土）～6日（日）

【参加者】 高校生2名、中学生3名
市議会代表2名
市職員2名

計 9名

行程

8月5日(土)

所沢市平和大使5名と市議会議員2名を含む参加者一行は、所沢駅で出発式を行い、新幹線にて広島へと向かった。

広島では、平和記念公園を訪れ、原爆慰霊碑に市及び市議会の代表として生花を捧げ、原爆死没者の冥福を祈った。また、原爆の子の像に千羽鶴を奉納し、その後は平和記念資料館、原爆ドーム、被爆爆心地（現：島内科）の見学を実施し、初日の行程を終えた。

- 8：30 所沢駅集合
- 14：27 広島駅到着（新幹線にて）
- 16：00 平和記念公園へ



広島市内移動中の様子

8月6日(日)

午前8時から「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」が開式され、原爆死没者の名簿の奉納、代表による献花の後、原爆投下時刻の午前8時15分、平和の鐘を合図に参列者全員で黙とうを行った。

次に広島市長による平和宣言、こども代表の誓いのことばと続き、岸田首相、国際連合事務総長などから挨拶があった。最後に会場では「ひろしま平和の歌」を拝聴し、午前8時50分に閉式となった。

式典終了後、広島駅に向い帰路についた。

- 7：10 平和記念公園着
- 8：00 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式 開式
- 8：50 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式 閉式
- 12：18 広島駅発（新幹線にて）
- 17：20 所沢駅着（解散）



原爆ドームを背景にして



慰霊碑へ献花



式典中の様子



式典会場 正面入口



爆心地 島内科医院

平和大使感想文

「戦争と平和」

中学2年 菅原 康太

今回、広島に行ったことで原爆の恐ろしさについてどれだけ悲惨なものであるかを学ぶことができ、とても貴重な経験をすることができた。今まで、広島原爆に関してどのようなものなのかを調べたことがあり、興味を持っていたのでこれまでの学びを深める機会になった。

まず、平和記念資料館ではこれまで見たり聞いたりしてきたこと以上のたくさんを知ることができた。資料館内の展示には写真などの資料と一緒に解説が分かりやすく書いてあり、初めて知ることがたくさんあった。中でも印象に残っている展示は爆心地についてと核爆弾の開発についての2つだ。まず、爆心地に関して学べたことは、爆心地の位置をどのようにして求められたのかと、なぜ原爆がその場所に落とされたのかを知ることができた。次に、核爆弾の開発に関しては、資料館の最後に核爆弾の開発に繋がった経緯などについて書かれていて、核分裂が発見されたのはヨーロッパで、それがアメリカの開発につながったという時代の流れがあり、もし核分裂が発見や見つかるのが遅かったら日本で起こらなかったことなのかもしれないと分かった。ほんの少しの時代の流れの違いで起きたものなのだなと思った。もし、日本に落とされていなかったとしても他の国に落とされていたかもしれない。そんな核爆弾は開発されなければよかったのと思った。

次に、平和記念式典では実際に参加することができてとても貴重な体験をすることができたと思う。式典の中で印象に残っているのは2つある。1つは小学生の平和への誓いだ。短い文を合わせて話していたことで、聞いていてとても心に響き、自分ももっと戦争に対してたくさん学ぶことがあると思った。もう一つは原爆死没者名簿奉納だ。原爆死没者名簿には5320名の名前が書かれていると聞き、78年経った今でも原爆で苦しんでいる方がたくさんいるのだと知り、衝撃的だった。その他にも、いろいろな国の大使が参列し、献花をしているところを見て、たくさんの国が関心を持っているのだなと思った。

最後に、今回の2日間を通して考えたことは「戦争」と「平和」だ。「戦争」というものがあって生まれる「平和」。背景に「戦争」という惨劇があることで戦争がない世界、つまり「平和」が生まれるのだと感じた。「平和」という言葉は「戦争」があることでできる。本当の「平和」は「平和」という言葉を使う必要の無い世界、いらぬ世界だと思った。今回、広島で学んだことを大切にしてこれからの学習につなぎ、活かせるようにしていきたいと思う。

市議会議員と市の職員の皆さん、一緒に活動した平和大使の皆さん、2日間ありがとうございました。

平和記念式典に参加した感想

高校3年 朝倉 星空

私はこの事業に参加して感じたことが2つあります。

1つ目は平和記念資料館で学んだ原爆の恐ろしさです。資料館では、実際の写真や実物など見て回りましたが1番記憶に残っている物は弁当箱と水筒です。その弁当箱は中学1年生の男性の遺体の下にあったものです。お弁当を楽しみに出かけた男性はそれを食べることなく亡くなってしまいました。私はこの展示物を見て自分の事と重ねて考えた時とても辛くなりました。

2つ目は戦争をしては行けないと改めて感じました。平和記念資料館では関係の無い人が多く被害に遭ったことが記録されていました。今ロシアとウクライナで戦争が起こっていて、関係の無い人達が多く亡くなっています。どんな理由があろうと戦争をしていい理由にはならないと思います。戦争はしては行けないと思うだけでは何も変わりません。何か自分達にできることはないのか考え行動出来たらいいなと思います。

今回この事業に参加して改めて戦争のことを学ぶことが出来ました。とてもいい経験になりました。式典での平和の誓いがとても心に残っています。みんなが他人事と思わず自分事として考えられるこの事業はとても良いと思います。

広島を訪れて

中学 2 年 都竹 絢葉

私は、広島平和記念式典参加事業に参加し、たくさんのことを学ぶことができました。

前日に見学した平和記念資料館では、原爆の持つ恐ろしさについて、より知ることができました。被爆した三輪車や熱線で壁に焼きついた人の影、破壊された建物など、展示されている実際の物を見ると、インターネットで見るより原爆の恐ろしさが伝わってきました。原爆ドームをこの目で見ると、当時の悲惨な情景が目には浮かんできます。たくさんの方の命が無差別に奪われ、生き残ることができた人も病気を患ったり怪我が残ったりして苦しいことばかりだったと知りました。たくさんの方を苦しめる原爆は本当に恐ろしいものなのだと思います。

そして広島平和記念式典に参加し、平和をたくさんの方が願っていることを知りました。参列者には、私たちのような中学生や高校生、大人、おじいさん、おばあさん、さらに私たちより小さな子供達、そして、海外の方もいらっしゃいました。多くの方が戦争を恐ろしく思い、平和を願っていると知って、戦争は本当にやってはいけないことなんだと感じました。

そして、式の中で行われた「平和への誓い」という項目に、特に心を打たれました。小学生二人が力強い声で核兵器の恐ろしさと平和への願いを訴えていて、私もこの想いを継いでいかなければならないと思いました。

私は、今回、所沢市の平和大使として広島を訪れ、たくさんのことを学びました。戦争というのは本当に恐ろしく、二度と行ってはいけないこと、あってはならないことなのだと強く思いました。まだ、世界には戦争を行っている国や地域があります。戦争を止め、核兵器を使わないようにするために、私たちにできることは小さなことかもしれませんが、今回の経験をまわりのみんなに伝えることで平和な世界が広がっていく一歩になるのではないかと思います。

最後に、このような貴重な体験に参加させていただき、本当にありがとうございました。

現代に生きる私たちがかつてのヒロシマを知る意味

高校 2 年 北島 綾香

私が平和大使として事業に参加したいと思ったきっかけは、広島を訪れたことがなかったこと、そして何より唯一の被爆国である日本に住んでいる身として戦争について学ぶことが必要であると思ったことにあります。

広島を訪れる前、広島原爆は 8 月 6 日に投下され多くの方々が被害を受けた恐ろしい脅威であると認識していましたが、実際に原爆資料館へ行ってみると言葉では到底言い表すことのできない想像を絶する残酷さがそこにはありました。鉄をも溶かすほどの高温の熱に苦しむ人々、飲み水を求める人々、家族の行方を心配する人々、廃墟と化した広島の街、どれも資料館に行かなければ現実に起こったことだとは思えないような状況ばかりでした。生まれた年が違えば誰もがこのような状況に遭遇していたかもしれないという恐ろしさに思わず声を失いました。しかし原爆の恐ろしさはそれだけではありません。後に人々を襲う後遺症です。後遺症により頭髪が抜けた人々、病死した人々、一発の原子爆弾は人々を長きにわたり苦しめ続けました。このような爆弾が存在していてもよいのでしょうか。ましてや、使用されてもよいのでしょうか。

私たちが原子爆弾による被害を学ぶ理由、それは今当たり前に存在する平和をこの身で認識し、一人ひとりが永久に続く平和を求め願うことが平和への第一歩になるからです。日本国民だけでなく、世界中の人々の戦争に対する関心が増えればさらに平和に近づくとおもいます。

今回、十代という時期に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

広島平和記念式典に参加して

中学 1 年 若松 彩音

私は今回初めて広島に行き、原爆ドーム、資料館の見学、平和記念式典の参加をさせてもらいました。

原爆ドームは、原爆を受けたまま保存されていると聞いていたので、もっと嚴重に整備されていると思っていました。しかし、細い柵で囲んであるだけなのにも関わらず、誰もいたずらや柵を越えようとする人がおらず、原爆ドームが保たれているのは、とてもいい事だなと思いました。また、原爆ドームにはこげた跡や傷がたくさんあって、昔の悲惨な跡が今もあり続けていると思うと、寂しく感じました。

原爆資料館では、子供達の顔や原爆により体が焼けてしまった写真や絵がたくさんありました。とても残酷で、見ていると悲しみや残酷さがズキズキと刺さってきて、じっと見ることができませんでした。しかし、この子供達は生きていて、この世界にいたんだ！と主張しているように感じました。

平和記念式典では、男の子と女の子のお話を聞いて、小学校の時に聞いたお話に「なぜ技術や才能を持っている人達が、大勢の人々の命を奪うためにその才能を使ったのかがわかりません。原爆などというとても危険な兵器を作れるその才能を、なぜ人々をいやしたり、助けたりするために使わなかったのか、私はわかりません。」という話を聞いたことを思い出しました。

私も、もし何かに優れた才能があったら、誰かの為に使えるような人になりたいと思いました。今回、この様な貴重な機会を頂き感謝しています。本当にありがとうございます。

所沢市平和を語る会 (語り部派遣事業)

なかじま すずえ
中島 寿々江さんによる

講話の様子



すぎもと こういちろう
杉本 孝一郎さんによる

講話の様子

やまなか まり
山中 茉莉さんによる

講話の様子



《事業概要》

被爆体験者・戦争体験者の語り部による講話を通じて、平和の尊さ、命の大切さを訴えます。

令和5年度は、平和学習の一環として小学校の児童と市職員を対象に実施しました。

【実施日】

| | 日程 | 場所 | 対象者 | 語り部 |
|---|--------|--------|--------|----------------------|
| ① | 5月30日 | 美原小学校 | 6年生 | 中島 寿々江さん |
| ② | 6月10日 | 並木小学校 | 6年生 | 中島 寿々江さん |
| ③ | 6月14日 | 明峰小学校 | 6年生 | 山中 茉莉さん |
| ④ | 6月28日 | 宮前小学校 | 4年生 | 杉本 孝一郎さん |
| ⑤ | 8月4日 | 所沢市役所 | 新規採用職員 | 杉本 孝一郎さん 山中 茉莉氏さん |
| ⑥ | 11月20日 | 伸栄小学校 | 6年生 | 山中 茉莉さん |
| ⑦ | 11月29日 | 泉小学校 | 6年生 | 杉本 孝一郎さん |
| ⑧ | 11月30日 | 和田小学校 | 6年生 | 山中 茉莉さん |
| ⑨ | 12月15日 | 北中小学校 | 6年生 | 中島 寿々江さん |
| ⑩ | 1月12日 | 椿峰小学校 | 6年生 | 中島 寿々江さん |
| ⑪ | 1月22日 | 北秋津小学校 | 6年生 | 中島 寿々江さん |
| ⑫ | 1月25日 | 中央小学校 | 6年生 | 杉本 孝一郎さん |
| ⑬ | 1月26日 | 小手指小学校 | 6年生 | 山中 茉莉さん |
| ⑭ | 1月31日 | 北小学校 | 6年生 | 中島 寿々江さん |

合計 14回開催 参加者数 1,064人

語り部紹介

なかしま すずえ 中島 寿々江さん（狭山市在住）

小学校6年生の時、広島市内の爆心地から500mの距離にある家（大手町）に祖母と生活していました。当時、ご両親は仕事で四国に住んでいましたが、四国が空襲の被害を受け、広島に戻ってきていました。

夏休みということで、原爆投下の数日前にたまたまご両親の住む家（3kmほど離れた大洲町）に移っていたため大事には至りませんでした。祖母や多くの親戚の方々を亡くされました。

被爆の体験をもとに当時の広島の様子や被爆当時の状況などから、戦争の悲惨さを訴えます。

～中島寿々江さんからのコメント～

今まで、被爆のことを人に話すことは避けていました。本当につらく、悲しい記憶だったものですから。しかし、私も歳を重ね多くの仲間がそうしているように、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを次世代に語り継ぐべきではないかと思うようになりました。

多くの方に原爆の話をする事、それが原爆に苦しめられた私の使命なのかもしれません。

語り部の活動を通して、話を聞いてくれた小学生の皆さんから励ましや健康を気遣うお手紙、平和に対する強い思いなどをお寄せいただき、私自身の励みとなり、これからも語り部を続けたいという確かな気持ちになりました。

すぎもと こういちろう
杉本 孝一郎さん（所沢市在住）

戦争が激しさを増した昭和20年2月、当時13歳のとき、艦載機からの機銃掃射の中、二人の幼い妹の手をとり、雪降る中を裸足で、必死で逃げました。その年の3月10日、一夜にして10万人もの尊い生命が失われた東京大空襲で自宅も焼失してしまいました。

東京大空襲などの話を中心として、現在と当時の様子の違いを伝えながら、平和の尊さと命の大切さを訴えます。

～杉本孝一郎さんからのコメント～

私は、平成17年に広島平和記念式典参加事業に所沢市民の代表として参加したことが、語り部を行うきっかけでした。広島の実相を知り、私にも戦争の悲惨さを語っていく使命があると一念発起したのです。

昭和20年当時、中学1年生だった私は、連日の空襲から逃れるため東京から新潟へ疎開したので、3月10日の東京大空襲からは難を逃れましたが、自宅や友人がどうなっているのか心配でした。

父と上京したときの東京は想像を絶するものでした。上野駅に降りて見た景色は死臭ただよう焼け野原で、戦争孤児といわれる親兄弟を亡くした子どもたちもたくさんいました。食べ物はもちろんのこと何もない時代でした。

何もない時代を生きた者から言わせていただければ、今は本当に恵まれており、全てに感謝して、命を大切に、そして平和が尊いということを実感してほしいと思います。未来は、若い世代の方がつくるものですから…

やまなか まり
山中 茉莉さん（所沢市在住）

広島で2歳の時に被爆しました。自宅は爆心地から1.4 km程の場所にあり、縁側で母が洗濯するのを見ていた瞬間に原爆が落ちました。被爆者であることをずっと隠してきましたが、母の死後に「逃げてはいけない」と、経験を語る活動を開始しました。

被爆者への偏見など、差別問題にも通じる視点で、戦争被害や核兵器の恐ろしさを語ります。

～山中茉莉さんからのコメント～

広島に原爆が投下された時、私は中心地から1.4 kmの母の実家で被爆しました。全滅地帯となった炎の海を逃げ回り、黒い雨にも濡れ、家も財産も全てを失い、焼け跡で野宿をして過ごしました。私はこの時2歳でしたから、当時の記憶はありませんが、物心ついた頃から、一緒に逃げ回った母、伯母、祖母などから、あの日の惨禍を聞いて育ちました。それに終戦1～2年後の町のいたるところに焼け焦げた電柱や崩れかけた家などの焦土の名残があり、その景色は子供心にハッキリと覚えています。その景色に母たちの話す原爆投下の惨状を重ね合わせて、私はあの朝の悲劇を理解し記憶していったように思います。

それにつけても、親たちの「生」への覚悟です。幼かった子や孫に、できることなら隠しておきたかった残酷な現実を、ちゃんと向き合って継承してくれたという事実です。私は今、彼女たちの紡いだ命の記憶を、私自身の祈りに変えて、継承していきたいと思っています。明日を生きる若い人達に、平和の尊さを知ってほしいから、その為に戦争の愚かさ、核兵器の恐ろしさを語っておきたいと思っています。できれば、戦争も核兵器も、過去の話でなく、今、目の前にある危機として捉えて頂けたらと願っています。若い皆様のことを、自分の子供や孫のように大切に想って継承してまいりたいと思っています。

平和祈念資料展



市役所1階 展示中の様子

《概要》

市役所及びまちづくりセンターにおいて、市所有の広島・長崎の被爆関係パネル等を展示し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを啓発します。

【開催期間および場所】

令和5年8月 2日～8月16日：市役所1階市民ホール

令和5年8月16日～8月23日：山口まちづくりセンター

【展示内容】

《所沢市役所市民ホール》

- ・広島、長崎原爆写真パネル

《山口まちづくりセンター》

- ・広島、長崎原爆資料パネル

市民の平和の想いを広島に届ける

市役所での資料展開催時には、令和元年度より市民ホールにて折り鶴を折ってもらえるコーナーを併設しています。

来庁者が平和への想いを馳せて折った折り鶴を、原爆被爆者への追悼の意及び恒久平和を祈念して、広島「原爆の子の像」に奉納しています。



令和5年度に奉納した千羽

資料編

所沢市平和推進事業の歩み

- 昭和 59 年 2 月 広島市より原爆の熱線を浴びた広島市旧庁舎内の敷石が所沢市に寄贈される。
- 10 月 市長ら一行が広島市を表敬訪問
- 昭和 60 年 8 月 6 日 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 11 月 28 日 所沢市広島原爆資料展を開催する。（中央公民館講堂）
- 11 月 30 日 市制 35 周年記念事業として所沢市平和講演会を開催する。
- 昭和 61 年 8 月 6 日 市長・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 昭和 62 年 1 月 新庁舎西口広場に広島市旧庁舎内の敷石を設置する。
- 8 月 6 日 市長・市議会・市代表らと市民代表が広島平和記念式典に参列する。
- 昭和 63 年 8 月 6 日 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 平成元年 8 月 6 日 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 8 月 9 日 市長・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成 2 年 7 月 1 日 所沢市平和都市宣言制定（告示）
- 8 月 6 日 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 8 月 9 日 市代表・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成 3 年 8 月 6 日 市民・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 10 月 26 日 第 12 回所沢市民フェスティバルに出展する。
- 平成 9 年 11 月 13 日 所沢市平和祈念絵画展「テレジンの子供たちが描いた絵」を開催する。（市庁舎）
- 平成 17 年 8 月 25 日 所沢市平和祈念資料展を長崎市の全面協力を得て開催する。併せて長崎市からの「語り部」講話会を開催する。
- 平成 18 年 8 月 8 日 平和を語る会（語り部派遣事業）を開始する。
- 平成 20 年 2 月 28 日 平和市長会議に加盟する。
- 平成 21 年 8 月 6 日 市長・市議会・市民代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 平成 22 年 8 月 9 日 市長が長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成 27 年 8 月 15 日 「戦後 70 年所沢市平和を語る会」開催
- 平成 27 年 10 月 7 日 平和を語る会（語り部派遣事業）の参加者が 1 万人を超える。
- 平成 30 年 3 月 語り部の方に感謝状を贈呈
- 令和元年 8 月 平和祈念資料展にて「～平和の想いを折り鶴に乗せて～」を開催。

※ 広島平和記念式典への参加については、昭和 60 年から毎年実施しております。

広島市旧庁舎被爆敷石について

昭和59年、当時の所沢市長が広島市との交流を深めていたことから、広島市から旧庁舎のまわりに敷きつめられてあった御影石でできた敷石が、当市に恵贈されました。

所沢市では、新たな庁舎建設が始まろうとしていたことから、新しい所沢市庁舎西口玄関前の広場に「広島市旧庁舎被爆敷石」を設置いたしました。

この敷石については、市民からの要望により、毎年8月に献花・献水を行っています。

なお、この敷石のモニュメントには、以下の内容が刻まれております。

この石は、広島市に原子爆弾が投下されたときに、同市庁舎前の敷石としてあったものを本市の平和への限りない願いと世界平和の祈念のため、とくに広島市の御好意により、昭和59年2月に譲り受けたものです。次の言葉とともに…

ノーモアヒロシマ
No more Hiroshima



令和5年度 所沢市平和推進事業のまとめ

令和6年3月発行

編集・発行 所沢市経営企画部企画総務課

所沢市並木一丁目1番地の1

電話 04-2998-9046

E-mail a9046@city.tokorozawa.lg.jp